

総合的な学習の時間 「手話体験教室」

横浜市立原小学校



単元（題材）目標

- 聴覚障がいとはどのような障がいなのかを学び、お互いを尊重できる思いやりの心を育てる。
- 聴覚障がいの方とコミュニケーションをどのようにとればよいかを理解し、自分たちがお手伝いできることは何かを考える。また、そのことにより、いろいろな人と共に生きることの大切さを知る。

(1) 実施時期

10月下旬

(2) 対象（学年等・人数）

第3学年 185名 保護者 多数 *本校では、毎年第3学年が、この学習を行っている。



(3) 指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭 第3学年担任 6名

外部講師 瀬谷区手話サークル「さかいの会」16名、区社会福祉協議会職員2名

(4) 実施内容

*「手話体験教室」開催前に、家庭での取り組みとして「テレビの音を消して番組を見て、感想を書く。」宿題に取り組んだ。

①サークル紹介・聞こえない人はだれ？

- ・聴覚障がいの方と健聴者の方が並び、どなたが聴覚障がいの方かを当てるクイズをする。

②聴覚障がい者への理解

- ・聴覚障がいの方が日常で困ることや周りの方々にしてもらうとうれしい事、聞こえ方は人によってさまざまな事等の話を聞く。
- ・コミュニケーションのいろいろな方法を紹介していただく。

③手話の講習：挨拶の手話

④電車ごっこ

- ・代表児童が、実際に聴覚障がいの方と電車に乗っているつもりで活動を行う。教師も運転手、車掌役として参加する。車内放送で電車の乗り換えを案内するも、分からなくて動けない聴覚障がいの方にどのような働きかけをすればよいかを考えて実践する活動をした。

⑤身振り当てゲーム

- ・クラスごとに分かれて絵カードを見ながら、身振り手振りで講師に伝える。講師は、手話や指文字で答えるゲームを行った。

(5) 成果

- ・見た目だけでは、気が付きにくい障がいであることを理解することができた。
- ・外部講師に話を聞き、実際に聴覚障がいの方と電車ごっこや身振り当てゲームで触れ合うことができ、自分ができることは何かを考え、できる事をやってみたいなという意欲をもてた。

(6) その他

- 土曜参観として保護者も参観・参加できた。家庭でも一緒に考えてもらうきっかけとなった。